

報道関係者各位

2021年1月5日

代表取締役社長執行役員 吉田 多孝の従業員への年頭あいさつ要旨

あけましておめでとうございます。

ヤナセ従業員に向けた、代表取締役社長執行役員 吉田 多孝の年頭あいさつ要旨をご案内します。

ヤナセグループ社員の皆さん、冬期休暇中に旧年中の疲れを癒してリフレッシュできましたか？本年も、皆さん並びにご家族のますますのご繁栄とご健勝を祈っております。

12月決算の速報値はまだ出ていませんが、新型コロナウイルスが蔓延する中、皆さんが精いっぱい頑張ってくれたおかげで、累計の連結経常利益は予算の数字に肉薄するまでに改善してきました。昨年1年間の皆さんの尽力に心から感謝します。今日から第149期 通期予算の達成を左右する“勝負の第4四半期”に入りました。1月・2月を予算どおりに通過できれば、通期予算の達成も見えてきます。ヤナセの底力を発揮して必達を目指しましょう。

今年は「丑年」です。丑（うし）は十二支の動物の中で最も動きが緩慢で歩みが遅いことから、「先を急がず一步一步着実に、物事を前進させることが大切な年」といわれているそうです。また、十二支の2番目の干支であることから「昨年の子年に蒔いた種が芽を出して成長する時期」とされ、まだ結果を求める時期ではなく、「結果につながる道をコツコツとつくっていく、基礎を積み上げていく時期」とされています。つまり、丑年は、「目の前の仕事を黙々とこなすことが、将来の成功につながる」と考えるといいようです。

ヤナセは、昨年4月に「新中期経営計画2022 ～Gear up for the Next～」(3カ年計画)をスタートしました。その主軸は「業務効率の向上」と「経費の削減」であり、今年は2年目となります。最終年となる来年に、この中期経営計画を確実に達成する上で、今年は丑年にちなんで、中期経営計画の基本方針である「業務効率の向上」と「経費の削減」を“着実に”進めていきます。

自動車の販売事業とアフターセールス事業の拡大は、確実に実行していかなければなりません。一方で、新型コロナウイルスはしばらく収束せず、今年も戦いは続くと思います。そういうときだからこそ、牛にならって、一步一步、着実に、基本を忠実に実行し、前進していく。そのような一年にしたいと考えています。

さらに、今年は「競合他社との差別化」を視野に入れた取り組みに、これまで以上に注力します。「ヤナセで買うことの価値」をお客さまに実感していただくためには、何をすべきか。競合他社と比べて、ヤナセは何が優れていて何を改善すべきか。全社一丸となって考え、実行する一年にしましょう。その成果が、“夢”と“感動”あふれる『クルマのある人生』の創造に結び付いていくと信じています。